



ふくしま森林文化企画展

# 成果報告書

平成22年6月26日～8月22日



福島県文化財センター白河館 まほろん



福島県立博物館



福島県文化センター 歴史資料館



アクアマリンうおのぼぎ~子ども漁業博物館~



ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

ふくしま森林文化企画展は、森林環境税を活用して開催しました。



実行委員長あいさつ	1
企画展の概要	2
開催場所マップ	3
企画展のイベントの一覧	4

### オープニングイベント

オープニングイベントでのあいさつ	
福島県知事 佐藤 雄平	6
代理 福島県議会副議長 瓜生信一郎	7
会津若松市長 菅家 一郎	8
オープニングトーク「森林 <sup>もり</sup> から未来へ」	
福島県立博物館 赤坂 憲雄	9
福島県文化財センター白河館・まほろん 藤本 強	10
福島県歴史資料館 富田 孝志	11
財ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団 檜村 利道	12
財ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま 安部 義孝	13
記念トーク「明日を素敵に生きるには」	
安藤 和津	14
オープニングイベントの写真	16

### 各館の展示・共通展示

福島県文化財センター白河館・まほろんの展示	18
福島県立博物館の展示	19
福島県歴史資料館の展示	21
アクアマリンふくしまの展示	22
フォレストパークあだたらの展示	23
県政 PR パネルの紹介	24

### 各館体験等

福島県文化財センター白河館・まほろんの体験	
古代のきこり体験	34
福島県立博物館の体験	
鶴ヶ城の樹木－樹木観察会－	35
いろいろ実演・いろいろ体験	36
アクアマリンふくしまの体験	
移動水族館&塩づくり体験	37
フォレストパークあだたらの体験	
エコキャンプ教室	38
初夏の森 ツリー・ウォッチング	40
炭焼きのすべて	41
キノコ植菌体験	42
地域のための森林整備講座	43
夜の森 昆虫ウォッチング	44
あだたらの森ミュージカル合宿	45
ツルを使って道具作り	46
山の木を使って親子で遊べる遊具作り	47

### 講演会

講演「原始・古代の森の資源の利用 －縄文人の自然知と工夫をさぐる－」	
山田 昌久	50
対談「山の技術と資源の活用 －熊野と吉野のフィールドから－」	
加藤 幸治・森本 仙介	51
講演「森は動いている －樹木の長い一生を科学する－」	
中静 透	52
対談「会津の森を語りあかそう」	
湯川 洋司・佐々木長生	53
「森を未来へ」発信フォーラム	
奥田 博・新妻 香織・山内 幹夫	54
講演会一覧	55
発行者、発行時期等	56

# 発刊にあたって

ふくしま森林文化企画展実行委員会  
委員長 鈴木 義 仁  
(福島県農林水産部長)

平成22年6月26日から8月22日まで、「森林文化」をテーマにこれからの森林と人との新たな共生について考える場として、「まほろん」、「福島県立博物館」、「福島県文化センター歴史資料館」、「アクアマリンふくしま」、「フォレストパークあだたら」の県内文化施設等5館が連携し、森林環境税を活用した「ふくしま森林文化企画展」を開催いたしました。

開催初日の6月26日には、福島県立博物館においてオープニングセレモニーを行うとともに、開催施設5館のトップによる「森林から未来へ」と題したオープニングトーク、県しゃくなげ大使である安藤和津さんの記念トークなどを行いました。

各館においては、古代から現代までに築かれた森林文化を時間軸に沿って辿り、それぞれ特色あるテーマで企画展示や体験学習に取り組みました。このうち「まほろん」では「原始・古代の森と人との共生」をテーマに原始古代の人々が生きるために森の資源をどう活用したかを古代の木製品や出土種子展示により探り、「福島県立博物館」では「森に生き山に遊ぶ!」をテーマに過去から現代までに人がどのような森林文化を生成してきたかを古民具や一木づくりの仏像などの民俗資料から探りました。また、「歴史資料館」では「森と人との歴史をたずねる」をテーマに森林の恩恵を現代に伝えた人々の苦労を古文書等から学び、「アクアマリンふくしま」では、「森と海が育む命」をテーマに森から海へ繋がる森林文化を学びました。「フォレストパークあだたら」では、「森林との共生を目指して」をテーマに樹木観察会や間伐、炭焼き等の体験を行いました。

さらに、5館連携の取り組みとして、共通の図録作成や県内の小中学校が取り組んだ森林環境学習成果をパネルにした展示等を行いました。

2ヶ月間という限られた期間ではありましたが、約11万人の皆様にご各館を訪れただき、本県の森林文化についての情報発信やこれからの新たな森林づくりについて考える機会の提供ができたものと考えております。

この報告書は、県民の皆様が本企画展で体感した「森と人との関わりの歴史」や「培われてきた知恵」をいつまでも心の中に残していただくとともに、これからの森林づくりの参考としていただく記録として作成しました。

皆様にはこれからも森林文化に触れて、森林づくりの大切さを考えていただきますとともに、森林づくりに積極的に参画していただきますようお願いいたします。

結びに、本企画展の開催に当たりご尽力いただきました関係各位、並びにご指導、ご協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

# 企画展の概要

## 1. 趣 旨

ふくしまの先人たちは、森林と人との密接なかかわりの中で、森林を保全しながら、これを有効に利用する知恵や技術等を培い、地方ごとに特色のある生活スタイルを育て、現在まで「森林文化」として引き継いできました。

近年の生活様式の変化に伴い森林と人との関係が希薄になりつつある今、県内5つの文化施設等が連携し、改めて森林の価値を見直し、これからの森林と人との新たな共生についてふくしま森林文化企画展を開催しました。なお本企画展は、豊かな森林を健全な状態で次世代に引き継ぐため、平成18年度から導入した森林環境税による取り組みのシンボル事業として開催しました。

## 2. 5館連携開催期間

平成22年6月26日（土）～8月22日（日）

## 3. テーマ

### 森林を守り育て、未来につなぎましょう

原始・古代の森との共生 … 福島県文化財センター白河館・まほろん

森に生き山に遊ぶ！ … 福島県立博物館

—ふくしまの森林文化—

森と人の歴史をたずねる … 福島県歴史資料館

森と海～森と海が育む命～ … アクアマリンふくしま

森林との共生を目指して … ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

行事	場 所	概 要	来場者数
6月26日(土) オープニング イベント	福島県立博物館（会津若松市） エントランスホール及び講堂	1. テープカット 2. オープニングトーク 「森林から未来へ」（各館代表者による企画展示の紹介） 3. 記念トーク 「明日を素敵に生きるには」 安 藤 和 津（県しゃくなげ大使・エッセイスト）	401名
6月26日(土) ～ 8月22日(日) 各館の取組み	1. 福島県文化財センター白河館・まほろん（白河市） 2. 福島県立博物館（会津若松市） 3. 福島県歴史資料館（福島市） 4. アクアマリンふくしま（いわき市） 5. ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら（大玉村）	原始・古代の森の資源の利用 古代の“きこり”体験 「古代の森」観察ツアー 対談「会津の山を語りあかそう」 樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」など 森林文化の変遷を知る古文書や歴史資料の展示 「森を未来へ」発信フォーラム 森から海へ繋がる現在の森林文化を展示 「塩作り体験」など 森林環境学習の成果の展示、昆虫ウォッチング 炭焼き体験など	109,534名

# 開催場所マップ



# ふくしま森林文化企画展スケジュール

6月26日(土) オープニングイベント

## 9時30分 オープニングセレモニー

### テープカット

佐藤雄平 福島県知事  
瓜生信一郎 福島県議会副議長  
菅家一郎 会津若松市長

福島県立博物館  
福島県文化財センター白河館・まほろん  
福島県歴史資料館  
（財）ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま  
（財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団  
会津若松市立城北小学校  
会津若松市立城北小学校  
会津若松市立城北小学校

赤坂憲雄 館長  
藤本強 館長  
富田孝志 館長  
安部義孝 館長  
檜村利道 理事長  
猪俣咲耶 さん  
長谷川暉隼 君  
田部己代志 君

## 10時30分 オープニングトーク

### テーマ「森林から未来へ」

福島県立博物館  
福島県文化財センター白河館・まほろん  
福島県歴史資料館  
（財）ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま  
（財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

赤坂憲雄 館長  
藤本強 館長  
富田孝志 館長  
安部義孝 館長  
檜村利道 理事長

## 13時00分 記念トーク

### テーマ「明日を素敵に生きるには」

講師 安藤和津 さん  
(県しゃくなげ大使、エッセイスト)

## ◎イベントカレンダー

開催日	イベント	開催施設	開催日	イベント	開催施設
6/26(土)	オープニングセレモニー 移動水族館がやってくる	福島県立博物館	7/24(土)夜 7/25(日)朝	森を知る 夜の森 昆虫ウォッチング	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
6/27(日)	移動水族館がやってくる	福島県文化財センター まほろん	7/25(日)	移動水族館がやってくる	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
6/29(火)	初夏の森 ツリー・ウォッチング	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら	7/26(水)	移動水族館がやってくる	福島県歴史資料館
7/2(金) 7/3(土)	森の活用 炭焼きのすべて	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら	8/1(日)	対談「会津の森を語りあかそう」湯川洋司(山口 大学教授)佐々木長生(県立博物館学芸員)	福島県立博物館講堂
7/7(水)	森の恵み キノコをつくろう (キノコ植菌体験:一般対象)	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら	8/6(金) 8/7(土) 8/8(日)	森で楽しもう あだたらの森ミュージカル合宿 講師 モンデンモモさん	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
7/11(日)	森の恵み キノコをつくろう (キノコ植菌体験:親子対象)	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら	8/8(日)	実演「手挽きろくろ」	福島県立博物館
7/11(日)	樹木観察会 「鶴ヶ城の樹木」	福島県立博物館	8/14(土)	講演「原始・古代の森の資源の利用」	福島県文化財センター まほろん
7/14(水)	森をまもる 地域のための森林整備講座	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら	8月中旬 ~下旬	森の恵み 地域の農・林産物直売	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
7/17(土)	「森を未来へ」発信フォーラム	福島県文化センター 2階会議室	8/25(水)	森の活用 ツールを使って道具作り(カゴ編み)	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
7/17(土)	対談「山と技術と資源の活用ー吉野と熊野 のフィールドからー」加藤幸治(東北学院大 学専任講師)森本仙介(奈良県教育委員会)	福島県立博物館講堂	8/28(土)	森の活用 山の木を使って親子で 遊べる遊具作り(コマ作りなど)	ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
7/18(日)	講演「森は動いているー樹木の長い一生を 科学するー」中静透(東北大学大学院教授)	福島県立博物館講堂			

# オープンニングイベント



## オープニングイベントでのあいさつ



### 主催者代表あいさつ

福島県知事 佐藤雄平

ふくしま森林文化企画展の開会にあたり、主催者を代表してごあいさつを申し上げます。

本日は、菅家市長を始め、ご来賓の方々にご臨席を賜り、また地元城北小学校のみなさんを始め多くのご来場をいただき誠にありがとうございます。

皆さんご承知のとおり、福島県は広大な面積を有し、国立公園から身近な里山に至るまで、多種多様で豊かな森に恵まれています。

森は私たちが災害から守り、水や空気をきれいにしてくれるほか、私たちが住む家や、机、いすにも木が使われ、食事の際には、きのこや山菜などをいただいています。

私たち人間は、昔からその恵みを上手に使いながら、感謝の心を持って森を守り育ててきました。

そこで培われていたのが、人と森のつながりであり、森林文化であります。

森との関わりあい薄れつつある今、私たちは、森との関係を見直し、将来の世代へしっかりと引き継いでいかなければなりません。

現在、福島県では県民の皆さんから森林環境税をいただき、自然観察会の開催や「もりの案内人」の養成など県民一人一人が参画する森林づくりを進めています。

今回の企画展は、その一環であり、県内五つの施設が共同で、ふくしまの森林文化を伝える初めての試みであります。

文化とは、人間社会の全てに生きており、私たちの心の拠りどころとなるものであります。

県民の皆さんには、この機会に福島県の豊かな森とそこに息づく伝統・文化への関心をさらに高めていただければと思います。

城北小学校の皆さん、今日ここで勉強をし、森に興味を持ってください。そしてみんなで力を合わせて、美しいふくしまの森を守り育てていきましょう。

結びに、本企画展の開催に当たり、ご尽力くださいました関係者の皆さん、並びに開催期間中、ご支援、ご協力をいただきます皆さんに心から感謝申し上げ、あいさつといたします。

# 福島県議会議長 祝辞

代理 福島県議会副議長 瓜 生 信一郎



本日ここにふくしま森林文化企画展オープニングセレモニーが開催されるにあたり、県議会を代表いたしまして、お祝いを申し上げます。

はじめにこの企画展に向け、ご尽力をいただきました県当局、それぞれのお立場からご支援・ご協力をいただきました関係機関の皆様へ心から敬意と感謝の意を表する次第でございます。

さて、緑豊かな森林は林産資源の供給ばかりでなく、地球温暖化の防止や多彩な動植物の多様な生態系を育む源として多面的で重要な役割を担っております。

こうした中で県民一人一人が参画する新たな森づくりに向けた様々な取り組みが込められているところであり、そのシンボル事業として、本日より県内5つの文化施設が連携、新たな森と人の共生について考える本企画展が開催

されますことは誠に意義深いものがあります。

どうか運営にあたられる5つの文化施設の職員の皆様には、来館される一人でも多くの方々に、私たち一人一人が森林の恵みにより生活が支えられていることや森づくりの大切さを一緒に考えてもらえる場となりますよう、伝え説明していただきたいと思っております。

また地元、城北小学校のみなさん、ご家族のみなさんをはじめ、ご来場のみなさまにおかれましては、この企画展を通して森の大切さや役割についてあらためて考える出発点としていただきますようお願いを申し上げます。

結びにふくしまの森林が今後とも多くの県民に愛され、親しまれ、県民の宝としていつまでも継承されていきますことをご期待し、お祝いの言葉といたします。

みなさんどうもご苦勞様です。



## 祝 辞

会津若松市長 菅 家 一 郎

只今ご紹介を賜りました会津若松市長の菅家一郎でございます。

ふくしま森林文化企画展オープニングセレモニーの開催にあたりまして、一言お祝いのご挨拶を申し上げたいと存じます。

まず、佐藤雄平福島県知事様お見えになられて、ふくしま森林文化企画展の開催、誠にありがとうございます。心からお祝いを申し上げますと思います。

福島県では、県内の豊かな森林を健全な状態で次世代に引き継ぐために平成18年度より森林環境税を導入されて県民一人一人が参加する新たな森林づくりをめざされていらっしゃるわけでございます。

その事業の一環として、水源区域の間伐や間伐材の利用促進さらには人、心づくりのための森林環境学習や森林ボランティアといった人材育成やフィールドの整備など様々な取り組みが展開されてきたところでございます。

こうした取り組みの中で森林文化企画展が開催されるということは森林文化をテーマに民

俗学、生態学、考古学など多様な分野から森林と人とのかかわりについて市民の皆様のさらなるご理解を得心するのでございまして誠に意義深いことであるとおのうに思っているわけでございます。

森林の持つ役割としては木材の生産、生態系の保全・土砂流出の防止及び水源かん養などさまざまな公益的機能があるなかで地球温暖化の原因である二酸化炭素を吸収する地球環境の保全という機能を備えているところであります。

この企画展を通してより多くの市民の皆様が森林の重要性を理解され、地球温暖化防止へのさらなる関心をもっていただくことを期待申し上げます。

結びに今後もさらなる取り組みによりまして本県の豊かな自然環境と良好な生活環境が後世に引き継がれることを祈念いたしましてお祝いのご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございます。

## オープニングトーク

館長 赤坂 憲雄

(福島県立博物館)



「森林文化」という言葉は必ずしも一般的ではないかもしれませんが、森林というものをながめるまなざし、あるいは人と森、森林との関係というものがさまざまな角度から問われている今、それを文化としての森、文化としての森林というところからながめてみようという、そういうメッセージが込められています。

森林というのは自然である－自然というのは人間が手つかずで、放置すれば美しく保たれる－という幻想がようやく終わって、森林は人間がいろいろな形で関わることによって守られ、育てられていくものだということがようやく見えてきました。その中で「森林は文化である。」というメッセージがここからはじまっています。

我々が森林とか森といっている生態環境というのは実は少なくとも2つあります。民俗の言葉でいうと「里山」と「奥山」という言葉があります。ブナの原生林が広がっているような奥山と人間との関わりと、人間たちが暮らしている村や町に近い里山と人間とのかかわりはあきらかに違ってきます。

「里山」の樹木は20年とか30年の周期によって伐採されて、炭にしたり、薪にしたり、人間たちによってさまざまに利用されることではじめて保たれていく生態環境です。ですから、ブナの原生林とのつきあいかたと里山とのつき

あいかたとはあきらかに異なっています。それがこの森林文化の様々な動きの中で見えてきました。

今回、県立博物館を含めた5館で、県内の小学校や中学校が行っている森林学習の活動の記録がパネル展示されています。その中で里山、奥山、人間たちがその多様な自然とともにつきあってきたのかということが環境学習という形で子供たちに伝えられることはいいことだと思います。

我々の県立博物館の展示の中では一木造りの仏像がひとつの目玉になっています。徳一が開いたと伝えられている会津若松市の明光寺に伝わっている12世紀の仏像といわれています。十一面観音の立ち姿がとても美しい。それについて少し触れておこうと思います。

一本の霊木、神が宿る木を切り倒してそこから仏像が彫り出されてくる「一木造り」はとても意味があることだと思います。樹木には魂が宿っているという感覚を我々の文化は昔から忘れずにきた、それがあの一木造りの仏像、仏像にはっきりみえているような気がします。

人と自然とが、人と森とが、人と木とがどのようなつきあいかたをしてきたのか、それは一つの文化として受け継がれてきたものだと考えたときに、「森林文化」が多様な姿を持って我々の前に姿を現すと感じています。



## 館長 藤本 強

(福島県文化財センター白河館・まほろん)

一万三千年前から二千五百年前が縄文時代、人々はすべての面でその暮らしを森に頼ってきました。この時期、世界では稲作や麦作が始まり、ヤギやヒツジを飼い始める新石器文化が始まりましたが、縄文文化はそれとは別な形で暮らしをたて始め、年間を通して住み続ける村が出来上がってきました。この時代はよく採集・漁撈・狩猟の生活といわれておりますが、その中でも採集というのが非常に重要な意味を持っていました。

山の木の实を利用し、食べ物とする暮らしです。木の实の中には灰汁あぐが強く食べられないものがありますので、そこで高度なあく抜きあぐの技術が発明されます。穀物に頼って同じところに村を作るというのではなく、森に頼って暮らす、世界的な基準でいえば、特殊な暮らし方で同じところに住む村を作るという生活ははじまるわけです。

衣食住の住を取り上げてみても、古来から木造の建築であることは間違いありません。これも世界的な眼で見れば、やや特殊なことなのかもしれません。世界的には石造りや日干し煉瓦で作るような家が多い中、縄文文化の場合には、森にある木を使って、家を作っていました。

衣食住の衣の面では、木の皮から繊維をとり衣として着ることに利用していました。

このように縄文文化の場合には、衣食住の全面にわたりまして森に頼った暮らしをしていました。道具類もたくさん木製の道具類と作り始めた特

徴を持っているのが、縄文文化ではないでしょうか。

二千五百年前以降、弥生文化になりますがコメ作りだけで暮らしていけるわけではなく里山を利用し様々なものを作り出してきました。

住いに関してもやはり木造であったし、日々の燃料(薪・木炭)も森に頼ってきました。

まさに私どもの日本列島の縄文文化以来の暮らしは、ずっと森との深い関わりの中で森に頼ってきたとっていいでしょう。

旧石器文化は、縄文文化の前、約一万三千年前から四万年前くらいまでのことですが、この時期日本列島の中には、世界の中で大変珍しい斧の形をした石器が出てきます。こういう石器が出てくるのはよその国では一万年以前以降のことです。それはなぜかということ、日本列島では森とのかかわりあいがあったからです。

四万年前以降、特に二万五千年前くらいまでの後期旧石器文化とよばれている中では、斧状の石器が、列島のあちらこちらに見られます。少なくとも樹木とのつきあいが古くからあったということを示していると思います。石器の中には刃先の部分を磨いて作ったものもあります。

まほろんでは玄人好みの展示になっているかもしれませんが、館にあります資料とともに、今お話ししたことを示すような資料をよそからお借りして展示しております。

## 館長 富田 孝志

(福島県歴史資料館)



江戸時代に谷文晁が、今でいう百名山に当たる、全国の山々を描いたものの中に福島県伊達郡桑折町にあります半田山を描いたものを展示してございます。

実はこの半田山、明治34年に山の形が変わってしまうほどの大きな地滑りを起こし、大変な被害を出しました。それを100年かけて復活して現在の半田山になっているわけですが、半田山というのは江戸時代には銀山で経済のけん引力になっていました。当時、その地滑りをいかに克服しようかと行政が動きました。県が国の技術者を呼び、綿密な調査をし、国に報告した。その結果、国の力も入って福島県も動いて半田山の治山事業が行われました。これに関する起案文書も図面も展示してあります。これは当時の方々も行政も力を尽くしてこの治山工事にあたった、心を砕いてきたという証しだろうと思います。そういうものもぜひこの機会にご覧になっていただきたいと思います。

また会津美里町にあります法用寺に十一面観音立像、観音様ご本尊様がございます。この観音様の謂われ『あるとき浜に打ち上げられた大木を、そのままにしておいたら不吉なことが起こり始めたので、その木で一木造りの観音様を作ってお祀りしたらそれらがおさまった』が絵巻物になっています。

この絵巻物は古いものですので、そのままご

覧いただいたのでは資料が傷んでしまいますので、全部カラーコピーをしまして冊子にし、手にとってご覧いただけるように工夫して展示しておりますので、こちらもぜひご覧いただければと思います。

そして最後に、今回企画しておりますフォーラムでは、エチオピアに森を復活させようという活動をされている新妻香織さん（NPO 法人フー太郎の森基金理事長）、山岳紀行家の奥田博さんをお招きしましてそれぞれ講演いただき、「森を未来へ」というテーマで意見交換会を開きます。あらためて森林文化についても考えてみようという機会ですのでぜひ時間があればお出かけいただければ幸いです。



## 理事長 檜村 利道

(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

ふくしま県民の森は、安達太良山の南東の斜面、裾野にあります。

ここは里山と奥山のちょうど中間ぐらいのところにありまして、森には樹齢100年を超えるような大きなアカマツの林もあれば、樹齢40年ぐらいの、人によって植えられた林もあります。薪炭林の経営をやっていた名残もありまして、人と森との関係がいろいろ見えてくる場所なのです。

今回の企画展では森と人との関係を皆さんに考えてもらうイベントをたくさん計画しています。イベントの主役はおいでになる皆様です。お子様も含めてみなさんおいでになって、古来の森林文化をまずは体験してみたいかがでしょうか。体験する中でこれらの経験をどう活かしていったらいいか、というのを皆さんで考えていただきたいと思います。

今回企画したイベントは、森で暮らす「エコキャンプ教室」、森を知る「ツリー・ウォッチング」や「昆虫ウォッチング」。それぞれの専門家と一緒に森林や昆虫の観察を行います。

次に森の活用として「炭焼きのすべて」、「ツルを使って道具作り」、「山の木を使って親子で遊べる遊具作り」を計画しています。博物館にも木地師の展示がありますが、木地師たちのお子さんたちが、余った木を使って遊んでいたと思われる遊びを実際にやっていただ

こうというわけです。

森をまもるための「地域のための森林整備講座」。林業技術はこれからもいろいろな面で役立つのではないかと思います。木の伐採をはじめとする技術の実習をやっていこうと計画しています。

森の恵み「キノコをつくろう（植菌体験）」です。キノコの専門家を招き、ムラサキシメジを使って植菌を体験してみようというものです。夏に生えるキノコについて指導していただき、試食をしたり。そして秋には収穫（予定）。そのキノコを試食するといったことをやっていきたいと思っています。自然生態系の循環の役割をしているのがキノコですので、そういう勉強もしていただこうと思います。

最後に森で楽しむ「あだたらの森ミュージカル合宿」です。東京の子供たちと福島の子供たちが森で合宿をしながら音楽（ミュージカル）を作ります。そしてそれを皆さんに聞いていただくということです。指導者はその道で定評があるモンデンモモさんです。モモさんにかかると音楽の素人でも音楽が作れるといわれています。子供たちが音楽を作って、ミュージカルを作って、それをおいでになった皆さんや森に住むタヌキやキツネにも聴いてもらおうということです。どうぞお楽しみにしてください。

## 館長 安部 義孝

(財)ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま)



森・川・海の循環というテーマで、このたびの「森林から未来へ」というテーマで私たち文化施設が共通のテーマで、いろいろ企画するという事は非常にいいことだと思っています。どこの施設もお客様が展示やイベントを通じて元気になるということが大事だろうと思います。

アクアマリンふくしまではこの森林のテーマは、実は4月から始まっています、4月1日から6月20日で一区切り終わりました。これは「森と海」というテーマでやりまして、刺激的な「森が死ねば、海が死ぬ」というシナリオになっています。

森と海とをつなぐ川がメッセンジャーになっているわけですが、川は栄養分を運ぶのと同時に必要な砂を海に補給するというはたらきがあります。ダムで水を止めれば海に栄養分がいかないので、海藻が育たない。また砂もストックしますから、少ない砂が動いて海岸を変えてしまう。そういうことがよく知られています。その両方が滞ると、つまり森が健全でないと海が死ぬということをこの刺激的な言葉は意味しています。

私たちは環境水族館ということで環境についてはシビアな情報を発信しております。森林面積の実に40%がスギやヒノキの人工林です。間伐しないので放置すればスギやヒノキの木が危機感を持って花粉を出すというのは本当だと思います。

ます。ですから林業をどうやって復活させるかが非常に大事なテーマだと思っています。

そういうことで森については伝馬船を地元の船大工さんに造っていただきました伝統文化をよみがえらせる。これは森と海、伝馬船を使った漁業との結びつきといういいメッセージになっていると思います。

海藻林とかケルプフォレスト、サンゴ礁そのものも太陽の光でサンゴ虫が育ってその養分をいろんな動物が共有するということでは海の森ですね。やはり森が死ねば海も影響を受けます。

シーラカンスはもう10年調べていますが、サンゴ礁に依存した生き物です。水深150mのところに住んでいます、サンゴ礁のおこぼれを頂戴して生き残っています。彼らが住んでいる海域は、水温が10℃になったり、瞬時に水温が20℃になったり変化するところです。そういうところは他の魚は住みたくない。

環境激変に耐えるというより鈍感だからです。鈍感であることは大切な事です。本当に鈍感では困るのですが、環境激変に耐える鈍感さが大事だろうということです。

いろいろ人間の都合で森林も川も海も破壊してきたわけで、縄文時代が一番よかったんでしょうが、江戸時代あたりのバランスを理想にして、それをまた回復していくというのが我々の役割と思っています。

## 記念トーク「明日を素敵に生きるには」



県しゃくなげ大使であり、エッセイストの安藤和津さんを迎え、多岐にわたるテーマについて次のようなお話をいただきました。

「日本はとても森林に恵まれた国であり、その中でも福島県は面積の70%が森林に覆われています。私たちはこの森林をもっと大切に守っていかないといけないのではないのでしょうか。日本はもともと木の文化で、家はもちろん煮炊きものをする薪や炭などすべて木に頼って生活してきました。昔の生活は、生活そのものが循環型社会になっていましたが、科学の進化とともに私たちの生活は変わり、森林を破壊し、また人間として大切な何かを失ったのではないのでしょうか。」という問いかけとともに始まりました。

「現在、先進国の食糧確保のために、発展途上国のたくさんの森林が失われており、そのおかげ



で私たちは24時間手をわずらわすことなく食糧を手に入れることができます。しかしそれらの森林を犠牲にしてまで得た食糧を、私たちは毎日たくさんの生ごみとして無駄にしていること、このことを再認識し、生活を見直すべきではないでしょうか。」とご提案されました。

「昔の生活はリサイクル、リユースが当たり前。靴下に穴があれば繕って履いていたし、おさがりは当たり前でした。今の時代より物を大切にしていました。」と。

そこで安藤さんはリサイクルの実例として、タイツを使ったヘアバンド、カラーストッキングでつくったブーケ（花束）、古い靴下を使ったシューキーパー、ラップの芯を使った鉛筆立てなど自作



の品々を見せてくださいました。そしてスーパーの袋の角を切って幼児にはかせると、砂遊びをしてもお尻が汚れないといった面白いアイデアも紹介してくださいました。

また男性の自立について問う「夫の自立度チェック」を行い、会場が大いに盛り上がりました。「自分でお茶ぐらいは入れるか。」「仕事以外に楽しめる趣味を持っているか。」など会場にいる男性陣が真剣に指折り数え取り組んでいました。福島県は思っていたより自立している男性が多かったことから、安藤さんからお褒めの言葉をいただきました。

高齢者社会を迎えています。安藤さん自身もご自分のお母様の在宅介護に10年間取り組まれ、



その体験談を話してくださいました。その話の最中は会場にすすり泣く声があちらこちらから聞こえてまいりました。安藤さんのとても優しいお母様が病気のため別人のようになり、心を打ちのめされるようなことが多々あり、心折れそうになったこと、涙を流したことがたくさんあったが、お母様のためにできること、例えば、添加物一切なしの全て手作りのもの、梅干しや佃煮を作るなど食の改善を続けていったら、お母様の様子が快方されていったそうです。「食」という字は「人を良くする」と書くように、「本当に人を良くするんだ。」ということを実感されたといいます。



また一人ではどうにもならない介護の大変さから自分を責めることもあったそうです。しかし、そんな中、辛いおむつ交換も母が活着ているからこそできること、おむつを替えないで済むのは見送ることだと気づき、自分が赤ちゃんの時にやってもらったことのお返しだと思えば当たり前のことなんだと思ったら、真っ暗なトンネルの先に光が見えた気がしたそうです。

そして最後にすばらしいメッセージをいただきました。

『人生は辛い<sup>つら</sup>ことがたくさんあるけれど、みんな幸せになるために活着ているんです。「辛い<sup>つら</sup>」という字はことを一つ乗り越えれば「幸せ<sup>つひ</sup>」という字になります。辛いことは幸せになるための試練』という安藤さんの言葉のようにポジティブに考え方を交換して暮らしていつてみませんか。

明日が素敵に変わるかもしれません。



## オープニングイベントの写真



佐藤雄平 県知事



瓜生信一郎 県議会副議長



菅家一郎 会津若松市長



企画展のスタートです



5館代表者によるオープニングトーク



安藤和津さんによる記念トーク

# 各館の展示・共通展示



## 福島県文化財センター白河館・まほろん



413点の展示品



間伐材のチップを敷き詰めた古代の小径



火おこし体験



古代の弓矢体験



森林環境学習パネル



パネル閲覧の様子

# 福島県立博物館



展示室入口  
巨木たちが出迎える



市町村の「木」でつくったパズル



一木造りの観音様と仁王像



ふくしまの森林をつくる樹木



木地師道具・手挽きろくろ関連

カラムシ (左) と  
ゼンマイ綿の  
ワンピース (右)



コバ削り台・付け木削り台



美しい歌舞伎衣装の数々



森林環境学習パネル



只見オボコとぜんまい綿(右)

# 福島県歴史資料館



法用寺縁起絵巻



山岳紀行家 奥田博さんの写真



新妻香織さんのエチオピアでの活動の様子

# アクアマリンふくしま



84歳の船大工さんが作った伝馬船



森林環境学習パネル



生物多様性



川の重要な役割

# ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら



森林環境学習パネル



親子で工作に夢中！



# 県政PRパネル

## 森林環境税

### 森林導入の経過

森林は水源のかん養を始め、崩土や自然環境の保全、二酸化炭素の吸収、多様な生物をばくむなどの多くの公益的な役割を担っており、本県の豊かな自然環境と良好な生活環境を生み出しています。

森林のこうした重要な役割を県民共有の財産として保全し、健全な状態で次世代に引き継ぐため、「県民参画による森林づくり」のための施策の財源として、平成18年度より森林環境税を導入しました。

### 森林の働き

<b>健全な管理された森林の働き</b> 健全な管理された森林は、水源のかん養、崩土や自然環境の保全、二酸化炭素の吸収、多様な生物をばくむなどの多くの公益的な役割を担っています。	<b>土砂流出や災害防止</b> 健全な管理された森林は、崩土や自然環境の保全、二酸化炭素の吸収、多様な生物をばくむなどの多くの公益的な役割を担っています。	<b>水源のかん養</b> 健全な管理された森林は、水源のかん養、崩土や自然環境の保全、二酸化炭素の吸収、多様な生物をばくむなどの多くの公益的な役割を担っています。
<b>二酸化炭素の吸収固定</b> 健全な管理された森林は、二酸化炭素の吸収固定、多様な生物をばくむなどの多くの公益的な役割を担っています。	<b>多様な動物の生息の場</b> 健全な管理された森林は、多様な動物の生息の場、多様な生物をばくむなどの多くの公益的な役割を担っています。	
<b>再生可能な資源、木材供給</b> 健全な管理された森林は、再生可能な資源、木材供給、多様な生物をばくむなどの多くの公益的な役割を担っています。		

手入れが利用が行われずに放置され、これらの働きが十分に発揮されていない森林が増えています。

森林を危機から守り、健全な状態で次世代に引き継いでいけるよう、「県民一人一人が参画する新たな森林づくり」に取り組んでいます。

### 森林環境税の仕組み

(1) 課税期間 平成18～22年度(5年間)  
 (2) 納付方法 県民税均等割への加算  
 (3) 納付額

個人: 1,000円/年 (県内に住所、世帯数がある方)	法人: 県民税均等割額10%相当額/年 (県内に事務所がある法人等)
---------------------------------	---------------------------------------

**税収 約10億円/年**

## 森林環境税の使途

森林の保全にとどまらず、山に放置されることが多かった間伐材の利用価値を高めることで、森林所有者による管理意欲の向上を図ります。

### 県民の参加

出資者の養成

### 人・心づくり

林業活動 フィールドの整備

森林環境学習や森林ボランティアについて、人材の育成やフィールドの整備に取り組み、森林を大切にすることを育てます。

## 「ふくしま森林文化企画展」の開催について

### 1 目的

森林は、森林を県民共有の財産として守り育て、次世代に引き継ぐため、平成18年度から森林環境税を導入し、「県民一人一人が参画する新たな森林づくり」に取り組んでいます。そのシンボル事業として、「森林文化」をテーマに県内のあつた文化施設で連携し、民間学、芸術学、考古学など様々な観点から森林と人との関わりについて見つめ直し、新たな森林と人の共生について考える「ふくしま森林文化企画展」を開催します。

### 2 主催

ふくしま森林文化企画実行委員会

構成 福島県立博物館、アケアミンくま、福島県歴史資料館、福島県文化センター、あつた、フォレストパークあつた

### 3 開催期間

平成22年6月26日(土)～8月22日(日)(共通開催期間)

### 4 展示概要

あつた、あつた、あつた

**古代**

- 福島県立博物館 (展示期間 6月26日～8月22日)
- 福島県文化センター 歴史資料館 (展示期間 6月26日～8月22日)

**現代**

- アケアミンくまのそま (展示期間 6月26日～8月22日)
- フォレストパークあつた (展示期間 6月26日～8月22日)

**森林と人との新たな絆を未来につなぐ**

## ふくしま森林文化企画展 (県立博物館)

森林と人がどのように関わってきたのか、そしてどのような文化がそこに生まれてきたのかを紹介するため、民俗資料(木作りの仏像、狩猟用具等)の展示と伝統的な工芸品(喜多方市の根曲り竹の工芸等)の実演を行います。

**寒みの森(只見町布衣)**  
高山とブナの森、奥只見の自然の美しい景色を私たちに伝えてくれています。

**スギ人工林(金山町)**  
人工林の人の手が入った美しい庭に、木と付き合おうをみるることができます。

**大蔵寺(福島市)木造金剛力士立像**  
180センチメートルの高さ、木造の金剛力士立像。そのまろみとした顔として知られるように、その力強さがあります。

**ゼンマイ畑のワンピース(会津若松市)**  
会津若松市に伝わる、ゼンマイの畑をテーマに、現代のファッションと結びつけて新しいワンピースに仕立てられたものです。

展示期間: 平成22年6月26日(土)～8月22日(日)

入場料: 大人 500円、小人 200円、幼児 100円

## ふくしま森林文化企画展 (福島県歴史資料館)

県内の遺跡から出土した木製品や權物、古文書・絵圖などの歴史資料を通じて、森と人との共生について考えます。



**新地町防山遺跡出土  
木製箱形容器(スギ)**  
江戸時代



**国分久馬時達書製鉄控書**  
寛永20年(1643)日下部三郎家文書378



**古社寺名所旧蹟碑宝物二ノ二  
法用寺縁起繪巻写**  
明治29年(1896)福島県庁文書1837



**大樹銘木製書**  
明治45年(1912)福島県庁文書3233

展示施設	展示期間
福島県歴史資料館	2023年10月14日(土)～10月22日(日)

展示施設	展示期間
福島県歴史資料館	2023年10月14日(土)～10月22日(日)

## ふくしま森林文化企画展 (福島県文化財センター白河館まほろん)

原始・古代の人々が、森を切り拓き、森の資源を利用して道具を作り、森の恵みを糧としてどのように森と共生してきたのかを学ぶため、当時の道具や木製品、食料等を展示するとともに、石斧、古代の鉄斧及び現代の鉋、のこぎり等を用いて丸太材を伐採する実体験を行います。



**古代の小槌**  
まほろんの古代の小槌、道具しりとり、古代の人々の暮らしの様子を学ぶことができます。



**新田村土器**  
約4000年前の土器、インフレーション型など、古くは縄文土器の一部に分類されています。



**縄文時代の石斧**  
縄文時代の発達した磨製石斧は、森を開拓し、森からの資源の加工に用いられていました。



**キノコ形土製品**  
木に生えるキノコは縄文時代に焼かれていたが、すでにキノコのように作られた土製品も出土しています。

展示施設	展示期間
福島県文化財センター白河館まほろん	2023年10月14日(土)～10月22日(日)

展示施設	展示期間
福島県文化財センター白河館まほろん	2023年10月14日(土)～10月22日(日)

## ふくしま森林文化企画展 (アクアマリンふくしま)

### 森と海

「失われた生物多様性」をテーマに森、川、海それぞれの役割そして、その場所に生息する生物を紹介し、展示をとおして森、川、海の関わりについて伝えます。



**川の役割**  
川は森と海をつなぐ大切な役割を持っており、様々な生物を育てています。



**森の役割**  
多様な生物が生きつづける森は、様々な生物の命を育んでいます。



**生物の多様性**  
私たちが暮らす地球上には様々な生物が暮らしています。



**命を育む森**  
川のように森もまた命を育む大切な場所があります。

展示施設	展示期間
アクアマリンふくしま	2023年10月14日(土)～10月22日(日)

展示施設	展示期間
アクアマリンふくしま	2023年10月14日(土)～10月22日(日)

## ふくしま森林文化企画展 (フォレストパークあだたら)

森林文化を学ぶことができる森林館やフィールドなどを活用し、自然観察会、間伐や炭焼きなどの体験学習を行います。



**森の活用 炭焼きのすべて**  
昔ながらの炭焼きも、最新の炭焼きにも関心を持って、今では「丸太」から「炭」までの一連の作業を体験することができます。この機会に楽しみましょう。



**森をまもる 地域のための森林整備講座**  
森は私たちの生活に欠かせない大切な資源です。その森を大切に、地域のために暮らすための知識やスキルを学びます。



**森の活用 ツルを使って道具作り(カゴ編み)**  
かつて、丸太や木片の他にも、森の中の様々な材料を調達し、道具の活用も行ってきました。今回は、カゴ編み、薪の薪しに挑戦してみましょう。



**森の恵み キノコをつくる(キノコ栽培体験)**  
森には様々なキノコが生息しています。キノコ栽培体験を通して、キノコの栽培方法やキノコの活用方法について学びます。栽培したキノコは収穫会もあります。

展示施設	展示期間
フォレストパークあだたら	2023年10月14日(土)～10月22日(日)

展示施設	展示期間
フォレストパークあだたら	2023年10月14日(土)～10月22日(日)

### 森林環境基金事業実績

## 森林整備事業

手入れが行われず荒廃が懸念される公益的機能の高い水源地域の森林について、県営事業及び補助事業により間伐等の森林整備を実施しました。

- 実績(H18～H21)
  - ・県営事業 整備面積：6,878ha
  - ・補助事業 整備面積：4,566ha



森林整備施工前(双葉郡)



森林整備施工後(双葉郡)



森林整備のための現地研修会(相馬市)



間伐材の搬出状況(いわき市)

●事業の実績により、林内の光環境が改善され、下層樹生が回復し土砂の流出の恐れがなくなるなど、森林が健全な状態となり公益的機能の維持増進が図られました。

### 森林環境基金事業

## 間伐材搬出支援事業 間伐材利用促進事業

**間伐材搬出支援事業** 間伐材の利用促進を図るため間伐材搬出に必要な作業路の整備や間伐材の運搬経路を支援しました。

**間伐材運搬経路支援事業**

山立等から林内作業路までの運搬経路を整備しました。  
【実績】平成19～21年度 91,777㎡



いわき市

**林内作業路整備支援事業**

間伐材搬出のための林内作業路の開設を支援しました。  
【実績】平成19～21年度 179,998㎡



田村市

**間伐材利用促進事業** 間伐材の利用を拡大するため、間伐材利用の必要性を広く県民に普及啓発しました。

**「ほっと」スペース創出事業**

利用者が公共利用の場、憩いの場づくりに活用されることで、林材によるさらさらの涼を演出し、間伐材PRを行いました。  
【実績】平成19～21年度 32施設



【事例】  
会津若松市 会津若松市立図書館  
【事例】  
会津若松市 会津若松市立図書館

**所有施設の間伐材利用推進事業**

所有施設の内部や外部等への間伐材の利用を行いました。  
【実績】  
平成19年度 湯野町 湯野町特別養老ホーム  
平成20年度 湯野町 湯野町福祉センター  
平成21年度 湯野町 湯野町福祉センター  
平成22年度 湯野町 湯野町福祉センター



【事例】  
湯野町 湯野町福祉センター

**ベレットストーブ利用促進事業**

所有施設への導入及び広域へのベレットストーブ導入を支援し、間伐材の有効利用を促進しました。  
【実績】平成19～21年度  
新規導入導入 275台  
取組導入支援 147台



【事例】  
いわき市 いわき市役所

### 森林環境基金事業

## 森林環境学習推進事業

県民を対象として、各流域の特色を活かした森林環境ゼミナールを開催するとともに、森林環境学習に必要なフィールドの整備を行い、森林環境学習の推進を図りました。

- 実績(H18～H21)
  - ・森林環境ゼミナール 延べ17回開催、延べ参加者1,836名
  - ・森林環境学習の森整備 8ヶ所



講演「森林の働き」(猪苗代町)



木工・工作体験



林業体験「アカマツ林の間伐体験」(猪苗代町)



林業体験「アカマツ林の間伐体験」(猪苗代町)

●県内4流域での森林環境ゼミナールの開催、県立および学校林における森林環境学習の森整備を行いました。  
これらの取り組みをはじめとして、県内で森林環境学習が推進されたことにより、森林づくり推進活動の参加者数は平成15年度の86,401人から平成20年度は147,988人(対H15年度比223%)に増加するとともに、森林の役割や重要性への理解の促進が図られました。

### 森林環境基金事業

## 森林ボランティア総合対策事業・もりの案内人等指導者養成事業

**森林ボランティア総合対策事業**

森林づくり活動の広げ、森林ボランティアに関する情報収集・提供、相談窓口業務等を行う森林ボランティアサポートセンターを設置するとともに、森林づくりを先導する事業やボランティア団体の活動を支援するほか、企業との連携による森林づくり活動の推進を図りました。

- 実績(H18～H21)
  - ・森林ボランティアサポートセンターの設置運営、森林づくり推進連絡会、森林づくり活動交流会の開催
  - ・森林ボランティア団体活動支援 延べ70団体(79名)

**森林ボランティア活動発表会(白河市)**



**植林活動(南相馬市)**



●県民による森林づくり活動の推進を図るために、大3のフォレストパークに森林ボランティア活動の場を提供する森林ボランティアサポートセンターを設置し、県内各流域において積極的に森林ボランティア活動の推進を図りました。  
また、森林ボランティアサポートセンターでは、ホームページの開設(14,000円)・年19回(21年度)のアクセスが実現しました。

**もりの案内人等指導者養成事業**

もりの案内人を養成するため、県民委員会や農協講座を開催するとともに、森林環境やその指導方法に関する研修会及び森林ボランティア団体のリーダーを養成しました。

- 実績(H18～H21)
  - ・県民委員会案内人認定者 延べもりの案内人118名(H19から認定者403名)
  - ・森林環境学習指導者養成 参加者111名
  - ・森林ボランティアリーダー養成研修 修了者62名
  - ・植林推進グリーンフォレスト認定者 H15からの認定者91名(H21まで)



もりの案内人養成講座(大玉村)



森林環境学習指導者養成研修(大玉村)

●もりの案内人(平成19年度以降118名)養成や森林づくり推進員(11人)などが、県民委員会等による研修会や研修会を通して森林環境学習の場を創出し、積極的に森林環境についての情報提供に貢献しています。

## ふくしまの森林文化復興事業

ふくしまの森林文化を改めて見直し、現代生活に活かしていくため、地域に根ざした森林文化について調査し、県民の皆様に分かりやすい形で広報しました。

- 実績(H18～H21)
  - 森林文化フォーラムの開催(3回、参加者数520名)
  - ふくしまの森林文化に係る調査検討委員会の開催(12回)



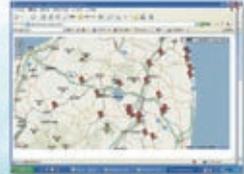
第1回森林文化フォーラム(福岡市)



第2回森林文化フォーラム(いわき市)



第3回森林文化フォーラム(只見町)



森林文化データベース  
(ふくしま森マップで公開中)

※ 森林文化フォーラム(第1回テーマ「森林と文化」(福岡市)、第2回テーマ「森の豊かさ  
と海の豊かさのつながり」(いわき市)、第3回テーマ「ブナ林の恵み」(只見町))を開催し  
専門家と交えた討論を行うとともに、インターネットを利用した森林情報の公開により、  
本県の森林の状況や郷土に伝わる森林に関する文化遺産等を紹介し、県民に改めて森林  
や森林文化の価値を考えていただくことができました。

## 森林環境基金運営事業

森林環境税に対する県民の理解を深めるため、パンフレットの配布やホームページ等による広報、交流会の開催等を行いました。

- 実績(H18～H21)
  - 森林環境フォーラム 参加者 200名
  - 水源地域の森林整備交流会 21回開催、延べ参加者 1,014名
  - 森林の未来を考える懇談会 19回
  - 県民アンケート調査(総回収数 11,043件)
  - タウンミーティング(参加者 415名)



イベントにおけるPR(郡山市)



水源地域の森林整備交流会(飯川村)



タウンミーティング(南会津町)



森林の未来を考える懇談会  
(調査・事業評価)(福岡市)

※ 森林環境基金運営事業については、有識者等からなる第三者機関である「森林の未来を考える  
懇談会」を設置したことにより森林環境基金事業全体において、基金の適正管理、透明性、公平性  
を確保した事業運営を行うことができました。  
森林環境基金事業のPRについては、アンケート調査の結果、回答者の43.7%が森林環境税につ  
いて知らなかったと回答していることから、引き続き、より効果的なPRを行う必要があります。

## 森林環境交付金事業

県民一人一人が参画する新たな森林づくりを効果的に進めるため、市町村が  
独自性を発揮して創意工夫を凝らした事業を展開することができるよう、森林  
環境基金の一部を交付しました。

- 実績(H18～H21)
  - 森林環境基本枠
    - 森林環境学習実践校 小学校 365校 中学校 125校 計 510校(全 774校の66%)
    - 地域環境基金交付
      - 56市町村、312件
      - ①森林整備の推進(42市町村、159件)
      - ②県産木材材の利活用推進(39市町村、105件)
      - ③木質バイオマスの利活用推進(24市町村、37件、ペレットストーブ設置台数：142台)
      - ④その他(6市町村、11件)

### 森林環境基本枠



(1) 森林整備の推進 (2) 森林整備の点検調査(金沢地方) (3) 森林環境学習の実践(糸井川下町)

### 地域環境基金交付



森林環境学習フェーの整備(飯沼町) ①地域環境基金交付(会津下町) ペレットストーブの設置状況(会津下町)

※ 森林環境基本枠では、小学校が365校、中学校が125校、併せて510校で、全県(県内小中学校数774校)の66%の小  
中学校が森林環境学習に取り組む、森林・林業についての理解促進が図られました。  
森林環境基金の中では、「森林整備の推進」として42市町村、702.1Ghaで森林整備を実施し、森林環境学習フェーの  
の整備や土壌改良等の取組を進め、「県産木材材の利活用推進」では39市町村、105件で、②で建設された木質内  
装材や木製製品の取組等に取り組み、「木質バイオマスの利活用推進」では、24市町村で142台のペレットストーブの設  
置を行いました。  
企業等の取り組みである交付金事業によって、市町村との連携のもと、住民参加による森林づくりを効果的に推進す  
ることができました。(地域住民と若年層の学生が森林整備や取組の推進を促す交流を行う(飯沼)などの取組みが行わ  
れました。)



## 【うつくしま育樹祭】

21世紀を通して、県民の皆様一人ひとりが森林に親しみ、守り育てる心を共有しながら、労力やアイデア、意見などを出し合う県民参加による森林づくりを一層推進するため、うつくしま育樹祭を開催しています。



第6回うつくしま育樹祭会場  
(〒福井 新自治森林公園)



第7回うつくしま育樹祭会場  
(石川市 東海の自然公園)



●広葉樹林の手入れ・・・株立ちしている高木性の広葉樹林において、密生しているものを伐採し、生長の良いものを残します。そして林床に木屑が目もさす様にし、中絶木の生産を促します。



●針葉樹林の手入れ・・・自然木の成長を促すため、細い木や曲がった木を伐採・玉切り・集積します。また十分に成長していない林では、樹高の1/2以下で、手の届く範囲の枝を落とします。針葉樹林も、林内に光が入ると下部の樹木が豊かになります。



●自然観察会・・・人と森林の関わりを学びながら、自然の豊かさを体験することができます。



●木工体験・・・木を使った多様な工作は、皆さんに気軽に楽しんで頂けます。

## 福島県緑の少年団について

緑の少年団は、福島県内に114団体(H21年度)、約6,400名(H21年度)の団員があり、各地域で自然体験学習や緑化活動など緑を守り育てる活動に積極的に取り組み、主に小学生により組織された自主的な団体です。

### 福島県緑の少年団大会

緑の少年団大会は、県内の緑の少年団が一堂に集まり、相互に友情と連携を深め、自然の中での共同生活を通じて豊かな人間性と奉仕の精神を培うとともに、緑を愛し、緑を守り、育てる心を養うことを目的としています。

平成21年度福島県緑の少年団大会は、第36回をむかえ7月28日～29日に開催されました。

県内32団体、約800名が参加しました。

体験交流活動(自然観察会)



〔田代町 森1〕もりの県人入会による観察会

体験交流活動(自然観察会)



〔田代町 森1〕もりの県人入会による観察会

体験交流活動(自然観察会)



〔国直野村 少年文化の家、国直1〕もりの県人入会による観察会

体験交流活動(自然観察会)



〔国直野村 少年文化の家、国直2〕もりの県人入会による観察会

体験交流活動



〔国直野村 少年文化の家、国直1〕もりの県人入会による木工クラブ

体験交流活動



〔国直野村 少年文化の家、国直1〕もりの県人入会による木工クラブ



体験交流活動



〔国直野村 少年文化の家、国直1〕もりの県人入会による木工クラブ

体験交流活動



〔国直野村 少年文化の家、国直1〕もりの県人入会による木工クラブ

## 半田山の治山

### 1 はじめに

森林は、木材などを供給する経済的機能の他に、水源のかん養、災害の防備、生活環境の保全などの公益的な機能を有しており、特にそれらの機能を発揮させる必要のある森林は保安林に指定されています。

治山とは、保安林の維持管理などをとおして、山崩れなどから人々の生命や財産を保全し、また水源のかん養や生活環境の保全を図る、重要な国土保全政策の一つです。

### 2 半田山の地すべり

半田山(桑新町)は徳川幕府時代に、酒造醸造場山として佐渡相川金山、但馬生野銀山と共に日本三大鉱山といわれ、当時は大いに賑わっていました。明治9年には明治天皇が御臨幸され、鉱山施設をつぶさにご覧になっています。

しかし明治24年頃から少しずつ地すべり活動が始まり、明治34年から明治36年にかけてが最も激しく、山の東側半分が大規模な地すべりが発生しました。その規模は、東西2キロメートル、南北1～1.5キロメートルに達する大規模なもので、江戸時代までの地すべりによる扇型の崩れを持つ特徴的な山容は、より一層驚々しい姿となってしまいました。この崩壊により、人家30戸及び鉱山施設26棟の移転が必要となりました。

また、山の中間にあった旧半田沼は消滅し、南側に新しい沼が出現しました。現在の半田沼の誕生です。これらの重要な地すべりは、第三期崩壊災害が深刻化しているためと考えられています。



土石流に被災した北半田地区の人家。明治43年8月崩壊。(写真3)

地すべりにより最も被害を受けたのは明治43年です。8月に入り、日本全土をおそった異常な降雨は、史上有数の災害(全国の浸水家数51万8千戸)をもたらしました。半田沼においても10日からの降雨により著しく増水し、16日には東端が決壊、土石流となって山麓一帯に氾濫し、特に半田村大字北半田(現、桑新町大字北半田)地区の山林、耕地、人家など、人畜に多大の被害(浸没、流出などの被害家数111戸、田90ヘクタール、畑30ヘクタール)を及ぼしました。この地すべりは昭和初期まで断続的に続きました。

北半田地区の被災状況(写真4・5・6)



土石流の進行方向、被災区域、数字は写真撮影の位置

### 3 治山事業の始まり

災害の翌年の明治44年から被災地の復旧事業が始まりました。これが、今から百年前、福島県として取り組んだ治山事業の始まりです。県の補助事業として、半田村直営で土木工及び植栽を行い、その後も、荒廃地の崩壊を防止するための山腹工事や、深流から土砂が流出するのを防止する溝間工事などが継続して行われ、大正11年からは崩壊工事として昭和52年まで実施されました。その後も断続的に現在まで治山工事が行われています。

現在の半田山は、先人の努力により、安全、安心がもたらされ、良事に縁が深まりました。また、桑新町も半田山の保安管理に力を入れており、半田沼を中心に、四季をおとして多くの方々に憩いの場として利用されています。



新半田沼(写真1)の誕生の様子。(写真7)



新半田沼が決壊し、土石流として流出した際の崩壊の様子。(写真8)



治山工事(深掘り)の実績状況。昭和8年撮影。(写真9)



明治30年の地すべり後の状況。昭和5年撮影。(写真10)



写真10の崩壊の様子。(写真11)



写真11の崩壊の様子。(写真12)



明治30年の地すべり後の状況。(写真13)



写真13の崩壊の様子。(写真14)



写真14の崩壊の様子。(写真15)



北半田地区の桜やかな崩壊の様子。実際の崩壊の様子と一致している。(写真16)

## なだれ防止保安林造成の始まり



なだれ防止保安林の造成の様子。昭和11年撮影。(写真17)

なだれ防止保安林は、なだれの発生を防ぎます。また、なだれが発生した時にはその勢いを弱め、被害を防ぎます。



なだれ防止保安林の造成(釜山町水沼町)。平成17年3月14日



なだれ防止保安林の造成の様子。昭和11年撮影。(写真18)

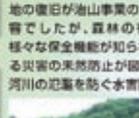
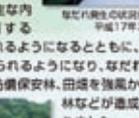


写真18の崩壊の様子。(写真19)



なだれ防止保安林の造成(桑新町大宮村大字山口字城口山)。昭和11年撮影。(写真20)



なだれ防止保安林の造成(桑新町大宮村大字山口字城口山)。昭和11年撮影。(写真21)



写真21の崩壊の様子。(写真22)



なだれ防止保安林の造成(桑新町大宮村大字山口字城口山)。昭和11年撮影。(写真23)



なだれ防止保安林の造成(桑新町大宮村大字山口字城口山)。昭和11年撮影。(写真24)

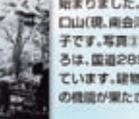
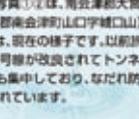


写真24の崩壊の様子。(写真25)



なだれ防止保安林の造成(桑新町大宮村大字山口字城口山)。昭和11年撮影。(写真26)



なだれ防止保安林の造成(桑新町大宮村大字山口字城口山)。昭和11年撮影。(写真27)

昭和初期までは、半田山の災害復旧に代表される荒廃林地の復旧が治山事業の主な内容でしたが、森林の有する様々な保全機能が知られるようになるとともに、森林の造成による災害の未然防止が図られるようになり、なだれ防止保安林や、河川の氾濫を防ぐ水害防備保安林、田畑を強風から守る防風保安林などが造成されるようになりました。

福島県でも、昭和8年から11年にかけての毎年の大雪で、会津地方がなだれ等による被災(死亡31名、負傷74名)を受けたことから、昭和11年からなだれ防止保安林の造成が始まりました。写真①②は、南会津郡大宮村大字山口字城口山(現、南会津郡南会津町山口字城口山)地区の造成の様子です。写真③は、現在の様子です。以前崩壊であったところは、国道289号線が改良されてトンネルと道路になっています。建物も集中しており、なだれ防止保安林としての機能が果たされています。

写真④は、河沼郡津村大字飯谷字鹿平(現、河沼郡津村大字飯谷字鹿平)地区において同じく造成している様子です。写真⑤は現在の様子です。写真⑥は現在の様子です。今も集落をなだれから保全しています。



なだれ防止保安林の造成(桑新町大宮村大字山口字城口山)。昭和11年撮影。(写真27)

## 潮害防備保安林造成の始まり



海中に倒れた松の木。昭和25年5月撮影。写真①  
昭和10年に潮害防備保安林に指定された。

潮害防備保安林は、津波や高潮の勢いを弱め、住宅などへの被害を防ぎます。また、海岸からの塩分を含んだ風を弱め、田畑への塩害などを防ぎます。

昭和初期、冷害や津波の災害が次第に増大する中、森林が有する様々な保全機能も知られるようになり、海岸の局所的な災害の発生を林木によって防止するために、

潮害防備保安林造成が、全国で行われるようになりました。福島県でも、昭和7年から造成が始まりました。

写真①は、石城郡大湊村大字下仁井田(現、いわき市西島町下仁井田)地区の潮害防備保安林造成の様子です。

写真①の皆さんが扱っているのは、植林したクロマツの苗を、風や潮の害から守るための茅(かや)や藁(わら)で、人力で運んでいました。当時の苦労が偲べれます。



海防林造成に携わった地元の人の写真①  
保安林造成は、風と潮の被害を軽減する効果もあった。



写真①の場所の位置

写真②は、植林から77年経た現在の潮害防備保安林の様子です。

写真②は、同じ地区を空から見た様子です。保安林が、家や田畑を、潮の害から守っている様子がわかります。



写真②の現在の様子。(写真②)



現在の潮害防備保安林を空から見た様子。(写真②)  
海岸に沿って勢よく見えるのが潮害防備保安林。

## いろいろなものを支える林道

### 森林整備を支える



林道に整備により、森林整備がしやすくなります。

### 林業を支える



林道から大型トラックで、木材を運んでいきます。



### 人々と森林とのふれあいを支える



林道を歩いた子供たちも笑顔。

### 地域の生活を支える



林道は、地域の生活として利用されています。

# 各館體驗等



## 福島県文化財センター白河館・まほろんの体験 古代のきこり体験

8月14日(土)

開催会場：まほろん・体験広場  
参加者数：26名



古代の石斧について解説する山田昌久教授



切り口を触ってみよう！



福島県立博物館の体験①

鶴ヶ城の樹木－樹木観察会－

7月11日①

開催会場：鶴ヶ城公園周辺  
参加者数：25名



講師の蓮沼憲二さん



防塁の下にもいろんな草花がありました



実物をもとに特徴や見分け方を説明



福島県立博物館の体験②

いろいろ実演・いろいろ体験(手挽きろくろ)

8月8日⑩

開催会場：県立博物館エントランスホール  
参加者数：53名



削る前の荒型



金井晃さんと  
木地師の紀治男さん(右)



来場者も手挽きろくろに挑戦！



手挽きろくろとカンナ棒



～移動水族館～

6月26日(土) 開催会場：県立博物館  
6月27日(日) 開催会場：福島県文化センター白河館 まほろん  
7月25日(日) 開催会場：フォレストパークあだたら  
7月26日(月) 開催会場：福島県歴史資料館  
参加者数：2,080名

アクアマリンふくしま

## 移動水族館&塩づくり体験

～塩づくり(随時)～

開催会場：アクアマリンうおのぞき  
参加者数：4,600名



何のお魚が見えるかな？



木炭を活用した塩作り体験

# ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験① エコキャンプ教室

6月2日(土)~13日(日)

開催会場：フォレストパークあだたら  
参加者数：40名



みんなでテントの張り方を覚えよう



竹でできたマイコップ





みんなでご飯作り



キャンプファイヤー



自然探検



森林の中でのすてきな1ページ

# ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験② 初夏の森 ツリー・ウォッチング

6月29日(火)

開催会場：遠藤ヶ滝遊歩道  
参加者数：11名



東北大学大学院環境科学研究科  
富田 昇さん



遠藤ヶ滝遊歩道を観察しながら歩く参加者



ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験③  
**炭焼きのすべて**

**7月2日(金)・3日(土)**  
 開催会場：フォレストパークあだたら  
 参加者数：17名



講師の武田清助さん



窯からは白い煙が…



熱い窯から炭を取り出す様子



見事な白炭が出来上がりました

(右) 講師の橋本文幸さん

# ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験④ キノコ植菌体験

7月7日(水)・11日(日)

開催会場：フォレストパークあだたら  
参加者数：29名



このように菌床を並べて…  
落ち葉で覆いましょう



秋には収穫できますように



キノコいただきまーす！

菌類のはたらき 木がボロボロです

子供達も  
落ち葉集めを  
がんばりました



皆でたべるとおいしいね



ムラサキシメジ収穫

収穫日 H22.10.23

ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験⑤  
地域のための森林整備講座

7月14日(水)

開催会場：フォレストパークあだたら  
参加者数：9名



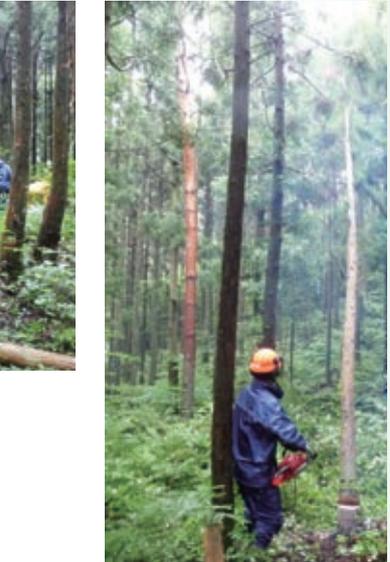
日頃から道具の手入れも大切です



初めて伐採に挑戦！



玉切り



切り株



# ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験⑥ 夜の森 昆虫ウォッチング

7月24日(土)~25日(日)

開催会場：フォレストパークあだたら  
参加者数：35名



アリジゴク (ウスバカゲロウ類の幼虫)



どんな虫が集まってきたかな？



トラップ(罟)に何がかかっていたかな？

# ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験⑦ あだたらの森ミュージカル合宿

8月6日(金)～8日(日)

開催会場：フォレストパークあだたら  
レクチャーホール  
参加者数：36名



始まる前、みんな少し緊張気味



モンデンモモさんの指導を真剣に受ける子供達



台本の読み合わせ風景



みんなが主役！とっても輝いていたよ！

# ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験⑧ ツルを使って道具作り(カゴ編み)

8月25日(水)

開催会場：フォレストパークあだたら  
レクチャーホール  
参加者数：21名



講師の橋本文幸さん



編むのに結構力が要るんです



ふくしま県民の森 フォレストパークあだたらの体験⑨  
 山の木を使って親子で遊べる遊具作り(コマ作りなど)

8月28日(土)

開催会場：フォレストパークあだたら  
 レクチャーホール  
 参加者数：14名



縄なしに初挑戦



コマを叩いてまわし続けます



講師の鈴木寅一さん



講  
演  
會



## 講演「原始・古代の森の資源の利用－縄文人の自然知と工夫をさぐる－」

首都大学東京都市教養学部教授 山田昌久氏



平成22年8月14日(土)、首都大学東京都市教養学部教授の山田昌久氏をお招きし、「実験考古学」の解説と実験データをもとにした縄文人の森の資源利用や生活、経済社会について御講演いただきました。

大昔の生活を解明するために、どのような資料や情報が必要かを研究する実験考古学を展開されています。

森林文化を支える植物素材の資料を研究素材に選択し、生活空間や技術発揮に関する今の社会を調査し、形や数量比較以外の情報を実験で数値化することをされています。



石の斧で直径約15cmの木は約1,000発、約10分で伐れるとか、

どれくらいの木を伐れば竪穴住居が何棟建つかなどを実験でデータを求め当時の生活について説明されました。

また縄文人が使った道具、弓や石鏃、槍などには様々な工夫がされています。弓がぶれないようにする工夫、石鏃や槍については骨まで突き破るための形状を加工する技術が発明されたことなどについてお話がありました。

また生活する上で需要があった燃料についても大変興味深い実験データの紹介がされました。

樹種ごとの温度上昇の違いや床面への飛び散り方、また炉の形状の違いによる調理時間の変化、場所に応じて使用する樹種の違いなど具体的なデータを得て、議論が活発になったということでした。

縄文の人々は私たちが思っている以上に自然知に優れ、生活や住居、道具に関して様々な工夫をしてきたことを説明されました。

午後には「古代のきこり体験」の実演が行われました。実際に石斧を使って、密度の異なる2種類の木(スギ・コナラ)を参加者が協力して伐りました。石斧の扱いに皆さん苦戦していたようですが、子供たちもたくさん参加していただき、大変貴重な体験をすることができました。



## 対談「山の技術と資源の活用－熊野と吉野のフィールドから－」

東北学院大学文学部専任講師 加藤 幸治 氏  
奈良県教育委員会文化財保存課 森本 仙介 氏



平成22年7月17日(土)、東北学院大学文学部専任講師の加藤幸治氏と奈良県教育委員会文化財保存課の森本仙介氏をお招きし、熊野と吉野の山林資源利用について御講演いただきました。

### 加藤 幸治 氏

熊野地域の林業は、黒潮の影響を受けた高温多湿気候のため、木の成長が早いので疎植し、樹齢60年くらいの木を間引いて出荷しています。山から木材を運び出すために川を利用した「管流し」や「鉄砲堰」といった方法がとられました。

雑木(ウバメガシなど)を利用した、世界一の炭と言われる、備長炭の生産を紀州藩が推奨し、大きく発展しました。備長炭以外にもニホンミツバチの蜂蜜(熊野蜜)、狩猟のために飼育される紀州犬、山村生活を支える川舟の活躍も熊野地方の大きな特色となっています。

熊野の人々は、自分たちが手を加え、変えた環境の中でできることを探し出し、またそれ以上のものを山が提供してくれるという「山まかせ」という認識を



持って生活しています。

### 森本 仙介 氏

「吉野林業」という場合、吉野川流域(川上村・東吉野村・黒滝村)におけるスギ・ヒノキの先進的民有林業を指しています。これらの地域はスギやヒノキの育成林業に早くから移行した地域です。最大の材木消費地である大阪へ吉野川(紀ノ川)を使った輸送が発達したことが、材木・林産物の商品化の進展と、育成林業の発達に起因しています。商品価値の高い優良材を得るために、密植・紐打ち・除伐・枝打ち・間伐・皆伐を経て筏流・造材へという独特の林業技術体系を生み出しました。

また吉野では杓子の生産も盛んで、天川郷・三名郷・舟ノ川郷の村々では、畑作を中心とした自給的な農業をしながら換金のために杓子作りを生業とし、最盛期(明治初期頃)には村の男性の9割以上が杓子職人でした。杓子生産が増えるに従い、奥山に広がる天然林の資源を活用する必要が生まれました。また、問屋などの都市商人の外部資本が直接的・間接的に入ることで賃労働による専門化・産地化が図られることになったと考えられます。



## 講演「森は動いているー樹木の長い一生を科学するー」

東北大学大学院生命科学研究科教授 中 静 透 氏



平成22年7月18日(日)、東北大学大学院生命科学研究科教授の中静透氏をお招きし、様々な樹木の世代交代のしくみや森や樹木の営みと人間の関わりについて御講演いただきました。

屋久島の森のような原生林は一見変化しないようにも見えますが、同じ木がずっと生育してきたわけではありません。樹木にも我々人間と同じように寿命がありますので世代交代をしながら森は存在し続けています。

ブナの場合は、平均200年たつと代替わりします。4,000年続いている会津のブナ林でも少なくとも20世代くらいは替わっています。ブナの花が咲く年というのは限られおり、種をつけても、そのほとんどは食べられてしまいます。種をつけることがものすごく無駄なような気もしますが、それくらい無駄をしないとブナにとって世代交代のチャンスを上手につかむことはできないのです。

スギやカツラなどの木が世代交代するためには、大きな台風や洪水・土砂崩れなどの攪乱が必要です。おそらくそれが起こるのは100年～数100年に1回くらい。そのチャンスをものにして種が遠くまで運ばれ稚樹が



育っていきます。樹木は長い寿命を持つことで、稀に起こる攪乱に対応しているのです。

人間の目からみると森が壊れることは大変なことだと思いがちですが、大規模に森林が壊れる機会を狙って、稚樹を育てている樹木もたくさんあるということです。

人がつくる森については、かつての人々は上手に森を利用してきたが、その中で様々な種類の動植物も生きていました。ここ数十年間で、私たちが森を利用する手段が大きく変わり、その変化があまりにも大きく、動植物に影響を与えています。ウサギ、シカなどの野生動物の問題や木の病気の蔓延など深刻な問題も引き起こされていることを我々は認識する必要があります。

今後雑木林とどのようにつきあうのか、新しい利用方法を、昔の知恵を参考にしながら我々が考えていくことが必要であると思います。

## 対談「会津の森を語りあかそう」

山口大学人文学部教授 湯川 洋司 氏  
福島県立博物館専門員 佐々木 長生 氏



平成22年8月1日(日)、山口大学人文学部教授の湯川洋司氏と福島県立博物館専門員の佐々木長生氏をお招きし、湯川先生の学生時代の思い出と九州や西日本の山村調査の知見もご披露頂きながら、会津の森林・森林文化について御講演いただきました。

### 湯川 洋司 氏

初めて会津に調査に訪れた大学生の時に感じたのは、会津の人たちは堅さのようなものがあって、素朴だけれど非常に温かみがあるということでした。森林や山のくらしをみても、会津の暮らしの中には決めごとを確実に実行する風土があり、山や森に対しても同じように現れていると感じました。

以前調査した九州の熊本県五木村では焼畑が行われており、それは数年先を読み、自分たちの食糧自給の計画を立て、循環的な土地利用をするという極めて合理的な体系に基づいて考えられた農業でした。森が生きるための地力を回復するまで森を拓かないという人々の心構えと規制をもって取り組んでいます。

森林に対してそこに木があればその木を何に使うか、どう使うか人間が知恵を働かせる。このように自然を人間が利用するとき人が知恵を働かせていく。そこで森林と人が出会ったときに生まれるのが「森林文化」だといえると思います。

森と適度な距離感を保ちながら森を敬い、そして自分たちに様々な恩恵を授けてくれることを実感することが非常に大事なことです。

只見町の「恵みの森」のように子供たちを含む、たくさんの人たちが訪れて、「森」のすばらしさを実感するフィールドがあるということは非常に大きな意味のあることだと思います。「森」のすばらしさを実感できる森を今あるような形で維持してきた先輩たちの努力をしっかりと受け止め、これからの世代の人たちのために、森とどうつきあい、森をどう作っていくかということが大事であると思います。

### 佐々木 長生 氏

私たちがいつも住んでいる村・集落を中心にし、その周りには田畑が、さらに野原（萱場）、そして里山、奥山があります。会津若松に例えると青木山一連が里山。磐梯山、飯豊山などが奥山と言えます。そして奥山には滅多に入ってはいけないとされ、非日常的なところには山の神様が祀られているということが会津地方では一般的に考えられてきたと言えます。

私たちが生活をしている日常と山の神様がやどる非日常の境にはブナの大木やスギの大木などの祀木（まつりぎ）があります。まさにそれが結界です。木霊（こだま）という言い方をしますが、山には靈魂があり、ご神木から仏様を刻み、祀り、それを拝めば豊作にしてくれる。長い生活の中で人々は山を労り、育てながら、自然の恩恵を受けました。これらはすべて山の神様が与えてくれると考えられていました。

自然に恵まれた「木」と「人」が織りなす文化や民俗、そして奥山の「森」と里山の「林」で構成される、そのような立体的な生活空間が長い年月をかけ作りだしてきた文化、「森林文化」だと思います。



## 「森を未来へ」発信フォーラム



平成22年7月17日(土)、山岳紀行家の奥田博氏、NPO 法人フー太郎の森基金理事長の新妻香織氏、そして県歴史資料館課長の山内幹夫氏を迎え、それぞれの活動や森林について御講演いただきました。

### もりの歴史

財団法人福島県文化振興事業団 歴史資料課長 山内 幹夫氏

4万年前の氷河時代から江戸時代にかけての福島の森の変遷を、浜通り及び中通り南部の遺跡発掘調査の結果から詳しく解説され、森を未来へ受け継ぐことの大切さを訴えられました。



氷河時代から縄文時代にかけての森の変化というのは、人為的攪乱は少なく気候変動に因るところが大きいものでした。しかし古墳時代以降は人間による森の利用が活発になり、伐採率が高まり始め、森の姿そのものが人為的に変化するように

なりました。中近世以降の森は人間との関わりで維持され、里山の原型となっていきました。古くから森は人々の心を育んできました。故に先祖から受け継いだ森を未来へ受け継ぐという事は、大切な心を未来へ繋ぐということです。

### 森林力・ブナの力

山岳紀行家 奥田 博氏



破壊された森の実態、森を守る活動、自然との共生とこれからの森、といった話を、写真を織り交ぜビジュアルに訴えながらお話しされました。

日本の森林は、高度経済成長期で全国的に開発が進められ、各地で森林保護運動が起こりました。福島市でもスキー場の開発が計画されたため、「高山の原生林を守る会」が発足し保護運動を行いました。その結果、開発計画が見直されました。バブル崩壊後は世界的に森林の価値を見直す機運が高まり、ブナの植林がブームになっていますが、森が成り立つメカニズムが無視され、ミズナラを伐採してブナを植林するという事例まで出ています。自然林には手を加えない方が良く

考えますが、外来種や遺伝子組み換え種が入り込んだ場合は管理が必要になります。人工林は下刈りや間伐などの管理が必要になりますが、今日ではそれが充分に行われておらず、里山が荒れています。今後我々は森林の形態に合わせた適正な管理を行っていく必要があると思います。また、自然と触れ合う経験をしているかないかで大きく我々の価値観も変わってくると思います。

ブナ林には人への癒し効果があるので、何度でも訪れてブナを感じて欲しいと思います。

## 希望を植えよう

NPO 法人フー太郎の森基金理事長 新妻香織氏



エチオピアでフクロウの仔「フー太郎」との出会いをきっかけに始まった、植林活動の話を中心に、森を失うとはどういうことか、その再生にどれほどの苦勞をとまうか、体験談を交えながらお話しされました。

エチオピアで「フー太郎」を保護した後、森へ帰すための旅に出るが、1960年代と比較して9割の森林を失った国の現実を見て、森を失うということは国家破産への道筋であることを痛感しました。それから、エチオピアで「教育」と「実践」を柱に木を植える活動を始め、10年間で40万本の植林や溜池造成を行い、2010年7月に外務大臣表

彰を受けました。昨年から3年間 JICA とも連携し、大規模植林を実施中。また、エチオピアの自立のためにドライフードの工場を造る計画を立案したり、バガタ仙台のコーチを派遣して現地でサッカー教室を行うなど、新たな取り組みを行っています。



日 時	内容・講師・パネラー	会 場
7月17日(土)	<p><b>「森を未来へ」発信フォーラム</b></p> <p><b>「もりの歴史」</b> 山内 幹 夫 (財団法人福島県文化振興事業団歴史資料課長)</p> <p><b>「森林力・ブナのカ」</b> 奥 田 博 (山岳紀行家)</p> <p><b>「希望を植えよう」</b> 新 妻 香 織 (NPO 法人フー太郎の森基金理事長)</p>	歴史資料館 (福島県文化センター)
7月17日(土)	<p><b>対談「山と技術と資源の活用－熊野と吉野のフィールドから－」</b> 加藤 幸 治 (東北学院大学専任講師) 森本 仙 介 (奈良県教育委員会)</p>	県立博物館
7月18日(日)	<p><b>講演「森は動いている－樹木の長い一生を科学する－」</b> 中 静 透 (東北大学大学院生命科学研究科教授)</p>	県立博物館
8月1日(日)	<p><b>対談「会津の森を語りあかそう」</b> 湯川 洋 司 (山口大学人文学部教授) 佐々木 長 生 (福島県立博物館専門員)</p>	県立博物館
8月14日(土)	<p><b>講演「原始・古代の森の資源の利用－縄文人の自然知と工夫をさぐる－」</b> 山田 昌 久 (首都大学東京都市教養学部教授)</p>	県文化財センター白河館・まほろん

# ふくしま森林文化企画展 成果報告書

平成22年12月発行

発行 福島県森林文化企画展実行委員会

事務局 福島県農林水産部森林計画課

TEL 024-521-7245 FAX 024-521-7543

印刷 陽光社印刷株式会社

